

医事課活動報告 11 月



11月26日、院内感染症BCP訓練がありました。

今回のテーマは「ノロウイルス感染症を想定した、嘔吐物の処理の訓練」です。

ノロウイルス感染症は冬季に流行のピークを迎え、感染すると、吐き気、嘔吐、腹痛、下痢などの症状を起こします。

ノロウイルスの感染力は非常に強く、10~100個のウイルスで感染、症状がおさまった後も最大で4週間ほど体内からウイルスが排出されます。

感染者の嘔吐物には、1gあたり1万~10万個という非常に多くのウイルスが存在するため、その処理を確実にすることが感染を拡大させないために非常に重要となります。

訓練では、処理の手順を確認したあと、実際に各自でガウンや手袋を着け、吐物に見立てた液体を処理する体験をしました。



【感染対策のポイント】

- ・1mの高さからの嘔吐で、フローリングで2.3m、カーペットで1.8mの範囲まで吐物は飛散する
- ・消毒液は、0.1%の次亜塩素酸ナトリウム液を使用する
- ・処理、消毒が確実にされていないと、乾燥したウイルスが空気中に舞い上がり、それを吸い込み感染する可能性がある
- ・感染を防ぐためには、石鹸と流水の手洗いを十分に行う



拭き取りをしたあと
ブラックライトで照らすと、拭き残しが予想以上に広範囲にあり驚きました！